

第48号(2021-3月発行)

根郷 寿だより



発行 佐倉市立根郷公民館
〒285-0815 佐倉市城 343-5
☎ 043-486-3147 FAX 043-486-3686
E-mail negou-public@city.sakura.lg.jp
編集 根郷寿大学・根郷寿だより編集委員会

<重要なお知らせ> 令和3年度 根郷寿大学受講申し込み受付開始

令和3年度の根郷寿大学受講生の募集が開始されました。新型コロナウイルス感染の防止対策として、従来と異なり募集定員の削減や授業内容を変更せざるを得ないことになりましたが、約50年の歴史を誇る根郷寿大学を再開講出来る喜びをお伝えしたいと思います。ご希望の方は本紙記載の募集案内に従って、申込書(末尾8ページ使用可)と返信用はがきを添えて3月23日(火)から4月9日(金)の間に、根郷公民館窓口<受付時間:午前9時00分から午後5時まで>に持参若しくは郵送して下さい。一昨年までの多くの仲間はもちろん、新しい仲間とともに楽しい”学び”の一年間となるよう、多くの方々が申し込みされることを期待しております。なお、新型コロナウイルス感染の拡大や、諸事情により中止や募集内容に変更が加わることも予想されますので、応募にあたっては最新情報を確認の上、申込をして下さい。

幼き頃・そして私の故郷

令和元年度十班 斎藤 たかし

昭和12年4月、私は秋田市で生まれた。暫くして、中国南西部郊外の橋で、日本陸軍の間違った鉄砲で中国人が射殺された。世に伝わる盧溝橋事件である。

私が生まれて間もなく、父の仕事の都合で東京杉並区荻窪へ移転、第二次世界大戦(太平洋戦争)の真っ只中を東京で過ごした。

当時のお米は米穀通帳による配給、大人が吸う煙草も隣組(現自治会等)の幹事(班長)が配給していた。食糧難時代、ご飯の上に梅干しを乗せ、”日の丸”弁当等で、麦のパンも上等食品であった。好き嫌いは言えない時代に育った。

終戦の年(昭和20年)秋田市へ疎開、その年、市内郊外の某製油所が米軍により爆破された。秋田県は元々石油の産地、その後、住みついた「にかほ市」の仁賀保高原に

も石油の発掘跡が残っている。

「にかほ市」平沢地区には親戚がいて、先祖のお寺（龍雲寺）があり、帰省を兼ねて墓参りする。今年はコロナウイルス騒ぎで困難、中学・高校時代の仲間達に会うのも難しい。中学は平沢中学（現在統合して仁賀保中学）、高校は由利本荘市にある本荘高校、にかほ市の町中から望む鳥海山（標高2, 236m）は素晴らしい。日本百名山の1つであり、別名トリミ山。その昔、鳥海（とりみ）と言う人がいて、その名を残している。山形県遊佐町との県境。自慢話は切りがないが、日本酒もその一つ。私の自慢ではなく、ふるさと自慢です。



最後にひとこと。地元の広報紙（広報にかほ）に二年程前、私の短歌が載りました。

- ・こだわりの 地酒恋しや 羽後の国
湧き水清し ふるさとの味
- ・ふるさとは 鳥海山の 麓にて
育った頃を なつかしむ日々
（左写真： ふるさと”仁賀保高原”
のテレホンカード）

<私の後書き> 前号（47号）について編集委員の辞意を表明後、書き足りない思いがありました。現委員長を中心とした委員の皆様にご協力方々、現受講生・卒業生（及び”ねごう歩こう会”等々）からの投稿を、心よりお待ちしております。

花見川近辺を散策

令和元年度八班 川辺 忠俊

印旛沼の水の利用は江戸時代から始まった。現在の川や沼に沿ってサイクリングロードが作られていた。この辺りを多くの方が散歩、又は自転車で散策しています。サイクリングロードは全長50kmで東京湾から、新川を通り長門川を通過し最後は利根川に至る。

印旛沼の水の流れも同じくサイクリングロードに沿って東京湾に流れるようになっている。歩きながら廻りを見ると新川あたりで釣り人が多く見かけた。この辺は住宅がなく周りはほとんど田圃で静かな所である。平戸橋から逆水橋あたりは川幅が狭く、ゆらゆら橋付近に来ると幅60mあるようだった。新川の終点に来ると大和田排水機場があり、沼の水の水位計によって測り、水が多い時に花見川へ流すのです。3年前にポンプや部品が古くなって新しく交換したそうです。利根川から新川の終点まで約30kmあります。

さて、八千代市に来ると地形が一段と高くなっているのが分かる。勝田台と高津台は海拔30mあるそうです。勝田台の下は江戸時代にはすでに谷津であり、当時勝田川の水の流れは新川へ流れ、高津川の水は花見川へと流れていた。江戸時代の掘割工事を行われる前までは新川と花見川は繋がっていないため、この辺の高台を分水界、又は分水嶺と呼んでいた。谷津の高台に高台池があって、その池を利用して天明時代から天保14年まで印旛沼掘割工事を行った所でもある。この場所は下横戸町で現在は弁天橋が架かっている。掘割工事の担当区域約2kmを庄内藩が受け持つ所で、ここは一番難所であり、化灯土が多いので工事が、難行したそうです。弁天橋より北へ500m先に元池弁天宮の祠があり、ここへ来ると当時、工事に関わった人夫を思い浮かぶ。

化灯土は水を含むドロドロの土で鍬にもかからない土で、又湧き水が出るため、川の水を水車でくみ上げて土を乾燥させてから地上（20m）まで運ぶそうです。工事が予定

より遅れ、その都度人数を増加している。9月の暑い中で人夫は重労働にたえ、中には赤痢や腸チフスにかかる人も増え、死に至る人夫が多かったそうです。9月は庄内地方は農繁期にあたり、若者の手が必要な時であり、掘割工事にいかせる事が出来なかった。江戸時代の平均寿命は50歳（人生50年）と言われた時代なのに、掘割工事に掻き出されるとは酷い。ここは一番の難所であり年齢は50歳前後の人夫が多かったそうです。

中には死亡した方の遺骨を親の意向を汲み入れて庄内（山形）へ持ち帰ったそうです。火葬や土葬などで行われたそうですが、主に土葬が多かったようです。天保14年（1843）9月13日と言えれば老中水野忠邦は失脚を理由に老中を罷免された。弘化元年（1844）に工事は中止となります。その後の工事は幕府が引き継ぐ事になりますが新たに進展がなく明治から昭和初期まで工事は行われず、昭和43年頃になって近代土木工事を取り入れ、昭和54年に初めて現状の川が出来上がった。

私事、昭和29年に再度花見川の歩道を歩いてみた。目的は元池弁天宮に参拝するためだった。川の土手は狭く、人や自転車が通るのが基本で自動車など通ることが出来ない。土手の片隅に小さな宮があり宮の中に30cm位の木像が安置してあった。参拝を終えると下流の弁天橋まで歩き、橋の上から下を流れる川を見ると地上までの深度が20m以上あるのが良く解った。16号線近くに庄内藩の人夫の墓もあり、少々感無量で参拝した。

国勢調査員を経験して

令和元年度四班 橋本 礼男

第100回目という節目の大事な国勢調査が行われたが、ここでも新型コロナが影響した。未提出世帯の対応を市に引き継いで終わったが、疑問の残る経験だった。

●不在の場合の対応は調査員次第

調査は対象世帯の確認から始まるが、不在の世帯が多く、不完全のまま日程の都合で書類配布になってしまう。

マニュアルでは、1回の訪問であきらめることなく、時間を変えるほか夜間や休日の訪問も例示されていた反面、市の指示では、人と人の接触を避けることが強調され、1回訪問して不在の場合は、「×月×日×時ごろ調査の依頼に伺いましたが、ご不在でしたので・・・」というメモと調査書類を郵便受けに投函することで良いともあった。

数回訪問してもインターホンの応答ナシにはがっかりしたが、世帯の確認時に不在の住居には、前期のメモを「調査の事前確認に伺いました。調査書類は9月14日以降に郵便受けに入れさせていただきます。世帯員が5人以上の場合（調査書が2枚になります）と調査員に調査書の引き取りを希望される場合はお知らせください。担当調査員×× 電話番号」と書いて投函した。結果、電話はゼロだった。

●不評だったこと

＜「調査への回答はお済ですか」のチラシが回答済みの世帯にも配布されたこと＞

調査票を直接回収の約束をした世帯は配布しなくても差し支えない、ということだったが、事前面談さえも困難なうえ、調査員による回収を希望する世帯はなく、全世界帯に投函した。

チラシは10月1日に配布（支持派1～3日まで）したが、インターネットでは、すでに始まっているとはいえ10月7日までが回答期限であるのに、いきなり「回答はお済ですか」、と恰も既に回答が遅れているかのように気分が悪かったと思う。

また、回答状況を見て8日から未提出世帯だけに配布することもできた筈であり、配布時期の指示が不適だったとも言える。

＜ネットと紙で回答期間が異なったこと＞

このことに気が付かず郵便回答を9月中に投函した世帯もあった。面談できた世帯には郵送は10月1日以降と説明したが、会えない世帯が多く、インターネットでは、9

月14日から始まっており、混同した世帯も少なくない。

しかし、ネットでは「回答後10月1日までに回答内容に変更があった場合は再ログインして修正するように」との文言があるように、回答日以降の出生や死亡、転居などが考えられる。

そこで調査票を調査日の10月1日以降に記入・投函すれば良いが、調査日以前に回答すると、変更があった場合、ネットでは簡単に修正できるが、郵便では困難と考えて期間を定めたものと思う。そうはいつても、期間前に投函したからといって郵便が届かなかった訳ではない。

ネットでは変更の場合も正確に回答されるものとムリな期待が、このような別々の回答期日になったものと思われるが、調査日は10月1日という原点に返ったうえで、実施方法を見直すべきと思う。

コロナ禍の中で一年間

令和元年度九班 直江 國雄

コロナウイルスのニュースは正月早々からあり、又私の友人から中国武漢「方々」さんの投稿日記を知る事が出来、武漢では大変な事が起き、それで政府がチャーター機5便も飛んで、更には大型クルーズ船から10名もの感染者が・・・あつという間に全世界爆発。

今度は政府から国民向けに医療対策警戒（イベント、週末の外出自粛、小中高校の臨時休校、東京五輪・パラ延期、首都圏など7都府県を緊急事態宣言）、これで国内も一変。私達も最小限の外出と3密を守り、体調の変化時にはいち早くかかりつけ医院へ行くこと！！

これは長期になりそうと、以前聖路加・日野原先生を思い出し、小さな希望を毎日持ち続け、それに実行できるものを加える事が上手な生き方なんですよと・・・私は「終活自分史基礎づくり」着手。まずは自分の部屋・環境づくりから、クーラーは腰痛のため扇風機、水分補給、ラジオ、携帯電話、空箱、友人・知人へのメール・手紙、疲れたら庭の散歩、昼寝を20分程度、机・戸棚・本箱から項目ごと仕分け作業。

・今までに投稿した文章 ・現役時代の調査、研究発表文章 ・趣味としてウミウシ採集研究記録 ・スケッチ、絵画、花づくり ・スポーツ、マラソン、スキー、スノーシュ ・国内外の観光等写真、相撲、色紙など。

さてこれを整理するたびに、過去の事が思い出され・・・よくもここまでやって来たなあ、入口はごみの山！！

8月に入っての日、突然朝から「のど」が乾き、顔が火照り近くのかかりつけ医院に電話した。午後2時から裏門入口、藤棚の中で診療・・・コロナではない熱中症という事で薬（3日分）をのんで冷やして下さい。家にもどり氷枕をして休み、夜中にはすっきり翌朝35℃平熱。午後電話をしたところ、薬はストップ、ゆっくり休み、3食バランスよく食べての指示。3日間で回復、大変良かったです。

次はメールや文通等をした相手から、近くに住むデザイナー（同県人）の方へウミウシと花のメールをしたところ、直ぐに写真をとの事。数日後には何んとTシャツと小型バックが出来て、早速ウミウシ役員にメールとFAX・・・これは大変良い品で、会員に最終資料とバックを記念品として送るので、注文数がとどき、企画したことがこれ程早く進んだ事にビックリ！！今度はウミウシに関心を持っているドクター3人に私達が研究した資料（ウミウシの生体色が美しい・・・これは身を守る為の保護色と考えられ、餌との関係を調べたもの）ところが3方共、色素の成分が毒素として保有。これを逆利用出来ないかを研究中、うれしいニュースでした。ラジオ放送からの話題：養老孟司先生（解剖学で有名）、昆虫も大好きな方で「私は今年、裏庭の木に大小のクモの巣

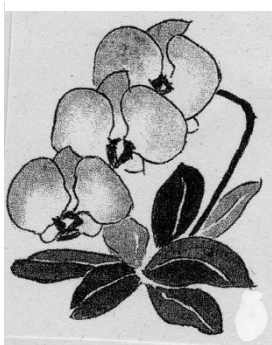
が多く何か異変かも（コロナ・・・?）」。第一声にクモの話が出て「ほっと」、コロナウイルスとの関係研究を進めている事を聞き、早く免疫でも薬でもよいのですが私達への：治療薬を祈るばかりでした。

10月中旬には、家内の叔父さん（洋菓子・ヨックモック）からメールが入り、ヨックモックミュージアム（ピカソ展）、お披露目会に出席してほしいとの事で行き、楽しい一時と多くの従兄弟達ともお会いし良かったです。また下旬にはウミウシ研究会から70年間の打ち上げ式を鯛で有名な氷見で行うので（富山弁：コロナだけは持って来られんなあ・コロナ持込禁止）、私も富山が実家で1年ぶりとおあって前日より出かけ家まわり草刈り（管理状況）みて1泊、翌日氷見の温泉ホテル（前には蛇が島、60年前初めてウミウシを採集し今夜が最後かなあ・・・）、湾の東側のは3000m級の立山連峰が見え、仲間達とは長い歴史のウミウシ会話、事故一つなくここまでやって来たなあ、温泉に入り夕食は海の幸をいただき、感動と興奮した一夜でした。翌日は近く能登半島をドライブ、昼には手をあげて解散。私は家に立寄り柿とりや栗ひろいをして1泊、翌日無事新幹線で帰りました。

今年はコロナ禍の中で私なりの目標にした事も出来、心の支えにしてきたウミウシ研究会処理も無事終了、後半には思い出の楽しみも出来て良かったです。

【サークル紹介】 本欄への投稿は、根郷公民館主催事業から発足したサークル、および根郷寿大学の卒業生や受講生による非営利活動で根郷公民館を主活動としたサークルに限定され、記載内容は「根郷寿だより」編集会議宛に文書にて提出されたものとします。なお紙面の都合により文字数や画像など掲載可否を含め「根郷寿だより編集委員会」に一切委任させて頂けるものとします。

◆「ヨーガ立ち木の会」



ヨーガの仲間を募集しています。

- 場所： 根郷公民館
- 日時： 毎週木曜日（月4回） 午前10時 ～ 正午まで
参加時にはヨガマット、タオル、飲み物（水など）持参
- 会費： 入会金 1,000円
月会費 2,000円 及び 部屋代200円
なお、サークル体験希望の方（1回）500円
- 連絡先： 山田 礼子 TEL:043-484-4555

編集後記

思い起こせば昨年3月、令和元年度根郷寿大学の閉講式を迎えるにあたり、式当日に受講生の方々に「寿だより」第46号をお渡しすべく、編集委員一同で校正作業や印刷を行っていました。その後、新型コロナウイルス感染が拡大し、募集を開始した令和2年度根郷寿大学も中止されるという事態となってしまいました。根郷寿だより編集委員会では、根郷公民館や根郷寿大学運営委員会会長の指導を得ながら、「根郷寿だより」第47号及び第48号、開講50年記念号の発行の可否を議論する中で、根郷寿大学受講生をつなぐ情報紙としての役割を考え、少なくとも第47号及び第48号を発行することとしました。当48号の発行に際して、ご投稿頂きました多くの方々、さらには根郷公民館の関係者の方々に編集委員を代表して厚く御礼を申し上げます。

以上 犬丸 俊博（記）

令和3年度 根郷寿大学募集要項

高齢化社会の中で、郷土愛を育み、地域の中で連帯を持ちながら充実した生活を送れるよう、健康の保持増進、歴史・文化、社会現象などを学ぶ場として、また交流の場として受講してみませんか。

【申込み資格】

- ・市内に在住する60歳以上で継続して通学できる方
(昭和36年4月1日以前に生まれた方)
- ・秩序を守り、学習活動(団体行動)ができる方

【開設の趣旨】

- ・生きがいを持ち続けるために、学習の場を提供する。
- ・孤立することのないよう交流を広げる場を提供する。

【定員】

①グループ 定員30名(応募多数の場合は抽選)

5. 9. 11. 1. 3月の第3金曜日と7月7日(水)の午前(全6回)

②グループ 定員30名(応募多数の場合は抽選)

6. 10. 12. 2. 3月の第3金曜日と8月4日(水)の午前(全6回)

※開講式は①グループは5月、②グループは6月となります。

閉講式は①グループは3月18日(金)10時から

②グループは 〃 13時30分からとなります。

【プログラム内容】 ①グループ、②グループともに同一内容となります。

ただし、都合により講座の内容及び日程等が変更になる場合があります。

【受講料】 受講料500円(資料代等)を第1回目の講座受付時に集金します。

※保険について 佐倉市が加入している「市民総合賠償保障保険」の対象となります。

ただし、自宅から公民館の往復途上は対象外となります。

【申込受付日】 3月23日(火)から4月9日(金)まで

根郷公民館窓口(受付時間は午前9時00分～午後5時まで)又は郵送(4月9日(金)必着)にて受付。

※応募多数の場合は抽選となります。 抽選の結果(受講の有無)はハガキにて4月末日までに通知します。

【申込方法】

根郷寿大学受講申込書に必要事項を記入し、ハガキ(表面にご自分の住所・氏名を記入)とともに、根郷公民館1階窓口に持参又は郵送してください。

※申し込みの際はハガキ(抽選結果通知用)を忘れずに添付(郵送の場合は同封)してください。

※鉛筆、消えるボールペンでの記入は不可です。

【その他】

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度より講座内容等（定員、講座回数、プログラム）が大きく変わります。また、感染状況により年度途中で講座を中止または講座内容を変更する場合があります。

※受講の権利を他人に譲渡することはできません。

問い合わせ 佐倉市立根郷公民館 043-486-3147

受付番号 《記入例》

令和3年 ●月 ●日

令和3年度 根郷寿大学受講申込書

私は、令和3年度根郷寿大学を受講したいので、下記のとおり申し込みます。

住 所	〒285-0815 佐倉市城343-5	電話番号	
ふりがな	ことぶき たろう	(自宅)	(486) 3147
氏 名	寿 太郎	(携帯)	
生年月日	明・大・ <input checked="" type="radio"/> 34 年 4 月 1 日	性 別	<input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女
	※令和3年4月1日現在の年齢 (61) 歳		
希望グループ	第 1 希望 ※必ず記入してください	第 2 希望 ※第2希望がない場合は記入の必要はありません	
	<input checked="" type="radio"/> ② グループ	<input type="radio"/> ① グループ	
備 考	耳の聞こえが悪い等 (健康上等、特に注意が必要なことなどがありましたら記入してください)		

※受講申し込みに係る住所、氏名、年齢、電話番号などの個人情報、必要な場合(保険手続き等を含む)をのぞき、その他目的には利用いたしません。

※希望グループは第1希望、第2希望が記入できます。

※ハガキにご自分の住所・氏名を記入し、この申込書と一緒に提出をお願いいたします。
(抽選結果通知用となります。)

※申込書・はがきは鉛筆・消えるボールペンでの記入は不可となりますのでご注意願います。

受付番号

令和 3年 月 日

令和 3 年度 根郷寿大学受講申込書

私は、令和 3 年度根郷寿大学を受講したいので、下記のとおり申し込みます。

住 所	〒285ー	電話番号	
ふりがな		(自宅)	
氏 名		(携帯)	
生年月日	明・大・昭 年 月 日 ※令和3年4月1日現在の年齢 () 歳	性 別	男 ・ 女
希望グループ	第 1 希望 ※必ず記入してください	第 2 希望 ※第 2 希望がない場合は記入の必要はありません	
	グループ	グループ	
備 考	(健康上等、特に注意が必要なことなどがありましたら記入してください)		

※受講申し込みに係る住所、氏名、年齢、電話番号などの個人情報、必要な場合(保険手続き等を含む)をのぞき、その他目的には利用いたしません。

※希望グループは第 1 希望、第2希望が記入できます。

※ハガキにご自分の住所・氏名を記入し、この申込書と一緒に提出をお願いいたします。(抽選結果通知用となります。)

※申込書・はがきは鉛筆・消えるボールペンでの記入は不可となりますので
ご注意ください。